

学校課題研究授業⑥ 11月6日（平成25年度）

学校課題

自分の言葉で考え、伝え合える児童の育成

—基礎的な力をもとに、思考を広げ表現できるようにする取組—

本校では、上記のような学校課題を設定し、研究に取り組んでいます。

本年度は、言語力の基礎となる語彙力を育成し、さらに思考力・表現力を豊かにしていきたいと考えています。そこで、伝え合う力を「共感的な人間関係を土台に、豊かな語彙をもち、適切な言葉を選んで自分の考えを広げたり深めたりする力」ととらえ、言語力の向上をめざして研究を進めていきます。

今回は、宮澤賢治の「やまなし」を扱った6年生の国語の授業です。三次で「作者宮澤賢治の生き方・考え方についてまとめる」ために、「①『かわせみ』と『やまなし』が表すものは何かという発問の有効性」、「②カードに各自の考えを書き表し、それをもとに意見を交流することの効果」を視点に、読み取りの仕上げとして作品を読み深め主題に迫る二次の授業でした。

視点①の発問により、子どもたちは「生と死の対比」を発想し、一生懸命自分の考えをカード（画用紙）に書いていました。視点②についても、カードに書かれた考えを分類して黒板に貼ったことで、子どもたちは友達の多様な意見に興味をもち、対立する考え（「かわせみ」→「死」「やまなし」→「生」、「かわせみ」→「生」「やまなし」→「死」）や同じイメージでも根拠となる叙述が異なることなどに気づくことに効果的でした。

グループでの話し合いのさせ方とその前提条件、カードの効果的・効率的な活用（簡易ホワイトボード等の導入、内容・文字の大きさ・キーワードに絞るなどの書かせ方、日常的な活用による慣れなど）、既習事項を生かすための手だてや多様な対比への気づかせ方、読む活動・何らかの音読の取り入れ方、視覚化したカードを生かした全体での話し合いのさせ方、本時の段階・内容に三次の設定も含めた単元指導計画の在り方などが課題となり、授業研究会では解決策や改善策を検討することができました。

今回の指導者である下野市学校教育課指導主事の高山靖子先生からは、「言語活動の充実」「単元を貫く言語活動の意義」「単元を貫く言語活動を位置づけた授業づくりのポイント～マトリックス型年間指導計画、子どもの実態の見極め、単元構想モデル～」などについてご指導いただきました。

